

2020年度
沖縄キリスト教短期大学
一般入学試験問題

国語総合 [選択・記述]

受験上の注意事項

- 1 監督者から試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 試験時間は、9時40分から10時40分までの60分間です。
- 3 この問題は、9ページあります。解答用紙は2種類です。
選択テスト（1～6ページ）…… 解答用紙(マークシート)
記述テスト（7～9ページ）…… 解答用紙(最後のページ)
※ 監督者の指示によりページを確かめて、もし間違いがあるときは交換を申し出てください。
※ 記述テストは、最後のページの解答用紙に解答してください。
- 4 解答用紙（マークシートとA4サイズの2種類）に、受験番号・氏名を記入してください。
- 5 マークシートの記入方法と取り扱いについて
 - 1) 鉛筆（必ずHBまたはB）を使用する。 ※ シャープペンシルは使用しないこと。
 - 2) 解答カード番号は、4 をぬりつぶす。 受験番号は4桁ぬりつぶす。
 - 3) マークシートは、機械処理します。もし解答記入後、訂正するときは、二重解答と読み取られることのないように、消しゴムで完全に消すこと。 また汚損しないこと。
- 6 問題用紙は持ち帰ってください。

国語総合〔選択テスト〕

次の文章を読み、後の問い（問1～問15）に答えなさい。解答はマークシートにマークしなさい。（各4点）

伝わらないという経験から

これまで数多くのワークショップを続けるなかで、私が最も強く感じてきたのは、子どもたちに、「他者との出会い」が決定的に欠如しているのではないかという点だった。

ここでいう「他者との出会い」^⑦とは、もっと簡潔に言えば、自分の言葉が容易には通じない体験ということだ。

私は、創作を志す若い世代に、演劇を創るということは、ラブレターを書くようなものだと説明する。「俺は、おまえのことがこんなに好きなのに、おまえはどうして俺のことが分かってくれないんだ」という地点から、私たちの表現は出発する。分かり合えるのなら、ラブレターなんて書く必要はない。

先にも記したことだが、高校生たちの表現は、単なる一方通行の「自己表現」であり、千差万別の他者を想定した「生きるための智慧」を含んだ表現にはなっていないのだ。高校演劇の審査員をしていて、いつも感じるのは、生徒創作の作品のそのいずれもが、自分の主張が他者に当然「伝わる」ということを前提として書かれている点だ。これはただ、いまの高校生に始まったことではないだろう。

日本はもともと、人口の流動性の低い社会の中で、「分かり合う文化」^⑧を形成してきた。村落共同体の中の誰もが知り合いで、似たような価値観をもっているのならば、お互いがお互いの気持ちを察知してうまくやっていくための言葉が発達するのは当然のことだ。その中で私たち日本人は、優れて緊密な芸術文化をツチカってきた^⑨。

明治以降の近代化の過程も、価値観を多様化するというよりは、大きな国家目標に従って、価値観を一つにまとめる方向が重視された。学校教育も社会制度も、そのようにプログラムミングされてきた。たしかに均質化した社会は、短期間での近代化には好条件だった。こうして日本は明治の近代化と、戦後復興という二つのキセキを成し遂げた^⑩。

しかし、くどいほどに繰り返すが、私たちはすでに大きな国家目標を失い、個人はそれぞれの価値観で生き方を決定しなければならぬ時代に突入している。このような社会では、価値観を一つに統一することよりも、異なる価値観を、異なったままにしながら、いかにうまく共同体を運営していくかが重要な課題となってくる。

いま、あらゆる局面で、コミュニケーション能力が重視されるのは、ここに要因がある。

「分かり合う文化」から、「a」への転換を図ろうということだろう。

ならば、教育のプログラムの内容も、情報を受容し、それを無難に処理していくような従来の内容から脱皮しなくてはなるまい。価値観、世界観の異なる他者と、価値観を摺り合わせていくための真のコミュニケーション能力が、ここでは必要とされるのだ。そのための出発点として、まず他者の存在を強く意識するシミュレーションが必要なのだ。

新しい国語の教科書の「対話劇を創ろう」という試みは、こうした理念から生まれた。

体験型の表現教育へ

表現とは、単なる技術のことではない。^⑦闇雲にスピーチやディベートの練習を繰り返しても、自己表現がうまくなるわけではない。

自己と他者とが決定的に異なっている、人は一人ひとり異なる価値観をもち、異なる生活習慣をもち、異なる言葉を話しているということを、痛みを伴う形で記憶している者だけが、本当の表現の領域に踏み込めるのだ。

多くの^⑧すぐれた芸術家は、自分の中にその断念、その絶望をもっている。人は幼少期、自分のことをけっして受け入れてくれない他者の存在を発見する。自分の愛する者、実の父や母でさえも、自分を受け入れてくれない「他者」の側面が確実にあるのだということを知って、ある日幼児は^⑨呆然とする。その哀しみを深く忘れない者だけが芸術家となる。

すぐれた芸術に触れるということは、その哀しみを追体験するということでもあるのだ。

いま、子どもたちは、少子化、b 家族化のなかで小さなサークルの中に囲われていっている。偏差値で輪切りにされたc 子どもたちが学校に集められ、教室

でもさらに気のあった仲間同士でしか話さない。まさに、自分のことを分かってくれる人としか話さない状況が広がっている。

一方で子どもたちは、これからの日本が、国際基準の「説明」を常に求められる厳しい社会に変容していくだろうことを敏感に察知している。^⑩温室のような家庭や学校と、社会におけるグローバルスタンダードの競争。この激しい乖離の中では、ある者は戸惑い精神を病むだろう。ある者はその危機を察知して、社会に出ていくこと自体を拒み、引きこもっていくだろう。

この状況を打破していくためには、単なるd としての表現教育から、表現の欲求を引き出すようなe 教育へと、プログラムの根本を変えていかななくてはならない。演劇は、そのような他者を感じるための、最もすぐれたシミュレーションになり得るのだ。

問1 傍線部⑦「他者との出会い」の特徴として、筆者はどんなことを挙げているか。もつとも**不適切なもの**をA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は1)

- A 自分の言葉がなかなか通じない
- B 子どもたちに決定的に欠如している
- C 自己表現が一方通行になりがち
- D 演劇を創るようなもの
- E ラブレターを書くようなもの

問2 傍線部④「人口の流動性の低い」の意味として、もつとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は2)

- A 産業の成長率が低い
- B 住民の移動が少ない
- C 人口の増加が見込めない
- D 地域の産業が安定している
- E ライフスタイルにあまり変化がない

問3 傍線部⑨「分かり合う文化」と親和性の高いものとして、筆者はどんなものを挙げているか。もつとも**不適切なもの**をA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は3)

- A 明治以降の近代化
- B 村落共同体
- C 緊密な芸術文化
- D 真のコミュニケーション能力
- E 大きな国家目標

問4 傍線部⑩と関連して「言葉を用いなくてもお互いの気持ちを察知する」と同じ意味の四字熟語で、もつとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(解答番号は4)

- A 以心伝心
- B 異口同音
- C 一言一句
- D 一期一会
- E 意気投合

問5 傍線部㊦「ツチカ^レつて」に相当する漢字を含むものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。
(解答番号は5)

- A 話し合いにバイセキする
- B 所得がバイゾウする
- C 損害をバイシヨウする
- D 微生物をバイヨウする
- E 商品をコウバイする

問6 傍線部㊦「キセキ」に相当する漢字を含むものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。
(解答番号は6)

- A キシヨウな生物を守る
- B 母校にキフする
- C キケンを冒す
- D 世にもキミヨウな話を聞く
- E キセツの変わり目に風邪をひく

問7 傍線部㊦「このような」が指していることとして、筆者はどんなものを挙げているか。もつとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。
(解答番号は7)

- A 個人が各自で生き方を決定しなければならないような
- B 自己の主張が他者に当然伝わることを前提とするような
- C お互いの気持ちを察知してうまくやっていくために言葉が発達するような
- D 大きな国家目標に従って、価値観を一つにしなければいけないような
- E 異なる価値観を異なるままにすることを許さないような

問8 文中の a に当てはまる語句として、もつとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。
(解答番号は8)

- A すぐれた芸術家
- B コミュニケーション能力
- C 対話劇
- D 説明し合う文化
- E 均質化した社会

問9 傍線部の「闇雲」の読みとして、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。(解答番号は9)

- A くらうん
- B くらくも
- C あんくも
- D あんうん
- E やみくも

問10 傍線部の「すぐれた芸術家」の特徴として、筆者の考えに近いものはどれか。もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。(解答番号は10)

- A スピーチやディベートの練習をとおして、高い自己表現技術を持っている
- B 自己と他者が決定的に異なっているということを、いつまでも忘れない
- C 成長とともに他者の存在を忘れていく
- D 愛する人々はいつか自分を受け入れてくれるとよく知っている
- E バックグラウンドは異なっても、同じ価値観を共有できると考えている

問11 傍線部の「呆然」の読みとして、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。(解答番号は11)

- A ほうねん
- B あぜん
- C ほうぜん
- D ぼうぜん
- E あねん

問12 文中の b に当てはまる文字として、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。(解答番号は12)

- A 純
- B 核
- C 大
- D 減
- E 非

問13 文中の に当てはまる語句として、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。
(解答番号は13)

- A 表現力豊かな
- B 多様な
- C 等質の
- D 国際基準の
- E 成熟した

問14 傍線部㊦「温室のような家庭や学校」とは、筆者によればどんなところか。もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。
(解答番号は14)

- A 国際基準の「説明」を求められる
- B 価値観が一人ひとり異なる
- C 真のコミュニケーション能力が重視される
- D 他者の存在を強く意識する
- E 人々が互いの気持ちを察知してうまくやっていく

問15 文中の と に当てはまる語句の組み合わせとして、もっとも適切なものをA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。
(解答番号は15)

- A d 技術 e 体験
- B d 実力 e 経験
- C d 才能 e 味わい
- D d 腕前 e 芸能
- E d 訓練 e 熟練

国語総合 「記述テスト」

次の文章は、『キッチン』という小説を紹介したものである。あとの問い（問1～問9）に答えなさい。解答は解答用紙に記入しなさい。

僕が上京するまで住んでいた実家は古くて狭くて頼りなかった。姉が小学生の頃、担任の財布が教室でなくなるという事件があった。担任は生徒全員を席に着かせて、突然「又吉さん知らない？」と言いついたらしい。そういうのは多分家が他の人に比べて狭いからだと思っていた。それと同時に姉なら担任の財布を盗みかねないとも思っていた。お金が目当てではなくて、そんなことを平然と言える最低な担任を困らせたかったんじゃないかと思った。

③ 犯人は姉ではなかった。財布は職員室から見つかったらしく女の担任は泣きながら姉に謝罪したらしい。姉は呆れていた。「あの人は駄目」と大人びたことを言っていて、弟の僕はもつと怒ればいいのにと思ったが、そもそも僕も姉を疑っていたので少し感情の置き所が難しい話だった。

そんな狭い家ではあったが、一般的な家庭サイズの大きな冷蔵庫があった。古い製品だったからか冷蔵庫は時折、「ブウウーン」と低音で唸る。真夜中になると町内が静かになるためか、その音がやたらと気になり、冷蔵庫の横で知らないオッサンが、「ああー」と叫んでいるように聞こえなかなか眠れない夜があった。ようやくオッサンが叫んでいる状態にも慣れて眠れそうになると、今度は急にそのシンドウオンが止まり完全な静寂が訪れたりする。それはそれで、「あれっ？ オッサン死んだん？」と気になって気になって仕方がない。完全な静寂程やかましいものはないのだ。

古い家だったので家族ならば階段を上る足音で、大体誰であるか解った。あまり音を立てない哀愁をおびた静かな足音は母だ。忍び足というのだろうか、僕が思うに又吉家

でもっとも盗人にむいているのは母だろう。

続いて、ジャマイカのレゲエミュージシャンさながら、リズムカルにトン・トントンと僕の鼓膜をいら立たせる足音は上の姉だ。連日何かで優勝しているのだろうかと疑うほど陽気な音だった。それを指摘して口論になったことさえあった。

続いて、一段とばしで階段に挑むのは下の姉である。他の者の半分の足音で二階までたどり着くので、音だけを聴いていると足の長い巨人を想像させた。そして、霸王の如く重厚な音で木造の階段に圧力をかけるのが父だ。減多に二階に上がることがなかった父親が不吉な音を立てて上って来た時は、大抵災いが起こった。季節外れのオオソウジ^エが始まり余計に散らかったり、残りの家族が皆一様に悪夢にうなされたり。

便所は汲み取り式のいわゆるポットン便所だった。僕はその便所が好きだったが、同級生で家がポットン便所の者など僕の他にはいなかった。そのため、「トイレを貸してくれ」と言われるとすごく恥ずかしく、又吉家の秘密であり、もっともブルー^⑥な部分を暴かれてしまうような恐怖感にさいなまれた。

実家におけるキッチンは、やはり母親の場所だという認識が強かった。母親の作る、味噌汁は塩の味が強過ぎて、食べていると海で溺^{おぼ}れているような感覚に襲われることもあった。

実家のあらゆる場所に様々な記憶が残っている。

『キッチン』という小説は、唯一の家族である祖母と死別した女の子の物語である。主人公を独特な距離感で支える温かい登場人物達。主人公の喪失によるゴドク^オと哀しみが、失った大切な家族の存在を浮かび上がらせる。

そういえば、^⑦東京で独り暮らしをはじめてからの方が、より大阪にいる家族の輪郭がはっきりとしてきた。

問1 傍線ア〜オのカタカナには漢字を、漢字にはひらがなの読みを記しなさい。

問2 傍線①「狭いから」を、文脈を踏まえて、別の言葉に言い換えなさい。

問3 傍線②「最低な担任」に関連して、なぜ担任を最低だと言っているのか、五〇字程度で説明しなさい。

問4 空欄③に適切な接続詞を記入せよ。

問5 傍線④「オッサン」は何を指すか、記せ。

問6 傍線⑤「それ」は何を指しているか、文中より二〇字以内で書き出しなさい。

問7 傍線⑥に関連して、なぜ「ポットン便所」を「ブルースな部分」と表現しているのか、五〇字程度で説明しなさい。

問8 傍線⑦に関連して、なぜ一人暮らしを始めると家族の輪郭がはっきりとするのか、五〇字程度で説明しなさい。

問9 この文章の中心になっているテーマを文中より漢字二字で書き出しなさい。